

2013 - the Year in Review

2013 年の総括

2013 年度は当実験所にある理学研究科の海洋生物学分科に修士課程 1 名、博士後期課程 2 名の大学院生が入学してきました。また日本学術振興会特別研究員を 1 名、教員として白眉プロジェクトの原村 隆司助教を受け入れ、メンバーが増えてのスタートとなりました。また年度末には、1 名の修士課程の大学院生が修士号を、3 名の博士後期課程の大学院生が博士号を取得し、就職していきました。こうした人の入れ替わりの中で、当実験所のますますの研究教育活動の充実に努めなければならない、と気持ちを引きしめています。

本年度は、教育拠点の本格的なスタートから 2 年目にあたります。この実験所は、日本でも特に海洋生物相の豊かな場所に立地しており、その特徴を活かした、より充実した臨海実習や共同利用のために、この教育拠点活動を推進していかなければならない、また当実験所を利用してくださる方々のより一層の利便性が達成されるよう活動していきたいと思っております。

当実験所では、1949 年より学術出版物として英文の *Publications of the Seto Marine Biological Laboratory* を発行してまいりましたが、このほどそのバックナンバーの全論文を京都大学学術レポジトリ事業によりオンラインで公開いたしました。この雑誌には、出版当初より日本及びその関連する地域の海洋生物に関する系統分類学や生態学などの自然史分野の重要な論文が、多数掲載されてきました。今回のオンライン公開によって、日本のみならず世界中の当該分野の研究者にとっての利便性が向上すると思われれます。

当実験所では 1968 年に国によって買い取られた田辺湾にある無人の島を管理し、教育と研究に活用しております。その島の貴重な自然について、買い取り直後から当実験所の所員によって海岸生物相のモニタリングが始まり、その調査を引き継ぐ形で、1983 年以降、当実験所の卒業生である大垣俊一氏を代表として 5 年置きに調査が継続されてきました。しかし大垣氏が一昨年急逝され、その後の調査を再び当実験所が引き継ぐことになりました。本年度がその 5 年毎調査の年にあたり、実験所所員と実験所にゆ



かりが深い方々、総勢 20 名以上が集まってくださり調査を実施することが出来ました。これらの方々に心より御礼申し上げます。

2013 年は、2001 年に 87 歳でご逝去された本実験所元所長の時岡隆名誉教授の生誕 100 周年にあたることから、その業績を紹介する企画展示をつくり、実験所附属白浜水族館にて 6 月 1 日より、公開を始めました。先生の研究業績は論文等 220 本におよぶ膨大なもので、特に尾索動物、毛顎動物、有櫛動物、節足動物甲殻類の鰓尾類の世界的権威として知られます。またこの企画展記念講演会を 9 月 14 日に行いました。

12 月には昨年度に引き続き、予想される南海トラフ大地震とそれに伴う大津波に対する対策のための、各種訓練を実施いたしました。当実験所は、各種の臨海実習や、白浜水族館にくる来館者など、よそから多くの人々が訪れるため、それらの人たちに対する対応もまた重要になってきます。本年度は、起震車を使っての震度 7 の地震の体験や、心肺蘇生法や自動体外式除細動器 (AED) 等を使った救命処置の訓練を行いました。

2013 年 11 月 1 日から、附属白浜水族館が耐震改修工事のために休館に入りました。リニューアルオープンは 2014 年夏の予定ですが、生まれ変わる白浜水族館が、新たな社会教育や生涯学習の場として多くの人に活用されることを願っています。

2014 年 3 月 31 日

朝倉彰

京都大学瀬戸臨海実験所所長